

市長コラム

～魅力ある地域づくり～

Vol.43



夏の厳しい暑さも和らぎ、過ごしやすい気候になってきました。秋の行楽シーズンを迎え、当市においても各地でさまざまな催しが目白押しとなっています。

皆さんもご家族お揃いでお出かけになられてみてはいかがでしょうか。

★蘇った仁太坊祭り

少し前の話になりますが、昨年12月号のコラムにおいて、金木地域のイベントに期待することと題し、『津軽三味線全日本金木大会』『仁太坊祭り』は、金木が発祥の地とされる「津軽三味線」を生かした全国に誇るイベントですが、その盛り上がりは、私としては寂しく感じました。これを地域活性化につなげるイベントとしてどうあるべきか、再考する必要があると感じました。』と書きました。

津軽三味線全日本金木大会、そして大会のエキシビジョンである仁太坊祭りは、津軽三味線発祥の地であるとともに、津軽三味線の始祖といわれる「神原の仁太坊」の出生地である金木地域にとって、たいへん重要な位置づけであると思っています。

その思いから、昨年の仁太坊祭りにおいては、長く続いたコロナ禍の影響もあり、主催の方々も開催に向けてモチベーションを高めるのが難しかったのではないかと感じながらも、もっと多くの人に集まってもらえるような祭りになってほしいという期待と激励の意を込めたため、少し強い口調になったかもしれません。

実際、主催者の一部の方からは、コラムの内容が厳しいというご指摘をいただいたこともあります。

そして、去る9月1日、津軽三味線会館屋外ステージを訪れると、まさに蘇った仁太坊祭りと表現するにふさわしい賑わいを取り戻していました。

会場内は、地域住民のほか、県外からの来場者もお

り、多くの人で賑うとともに、素晴らしい三味線の音色はもちろん、金木商工会青年部による「ビアガーデン」、KADOKKOによる「仁太坊そば」、6台のキッチンカーに、産直メロス軒下では五所川原裏千家和敬会によるお茶会が催されるなど、新たな仁太坊祭りの姿に感動し、時間を忘れて心地よい会場の雰囲気を楽しむことができました(3ページ掲載)。

★金木地域でしか開催できない祭り

五所川原地域の「立佞武多」、市浦地域の「相内の虫送り」「協元お山参詣」など、それぞれの地域に根差した祭りがあり、金木地域においては「仁太坊祭り」こそが地域特有の祭りであると思っています。仁太坊の名を冠した祭りは、金木地域でしか開催できません。

津軽三味線にまつわる長い歴史を刻んだ地域特有の祭りだと感じているからこそ、コラムに書きましたが、今年は金木地域の持つ反骨精神と一人ひとりの「じょっぱり、が見事に融合し、祭りの風景が変わりました。

かなぎ元気倶楽部を中心とした津軽三味線全日本金木大会実行委員会、金木商工会、行政の官民が一体となって連携して取り組んだ結果、地域を盛り上げようとする皆さんの思いの強さが体现されたと思っています。

今後は、地域が一体となり協力して祭りをつくりあげていくことで、地域住民はもちろん、祭りに合わせて故郷に帰ってきたい、また、県外からも三味線を堪能するために訪れたいと、より多くの皆さんに思ってもらえるよう、育てていってほしいと願っています。

「祭り」を通して、地域に対する誇りや愛着をもっともっと湧き起こそうではありませんか。



多くの人で賑わった今年の仁太坊祭り